



# SATOYAMA イニシアティブ と能登の創造的復興

国連大学サステイナビリティ高等研究所  
客員リサーチフェロー 渡辺綱男

写真：橋本幸則

# SATOYAMAイニシアティブ



日本

- **背景**
  - **生物多様性を保全していくには**  
原生的な地域を保全するだけではなく「里山」のように人の影響を受けて形成・維持されてきた二次的自然環境の保全や再活性化も同じく重要。
  - **Socio-Ecological Production Landscape and Seascapes (SEPLS) (社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ)**  
生物多様性を維持しつつ、人と自然の相互作用によって形成された土地利用の動的なモザイク。
  - **こうしたランドスケープは世界中で見られるが**  
都市化や産業発展、急激な人口の増加・減少などの理由により、多くの場所で危機にさらされ、既に失われてしまったところも多い。



ブータン



マラウイ



イギリス



オーストラリア

# SATOYAMAイニシアティブ

- ・ 二次的自然環境における自然資源の持続可能な利用・管理を推進
- ・ 自然共生社会を実現

## 長期目標と3つの行動指針

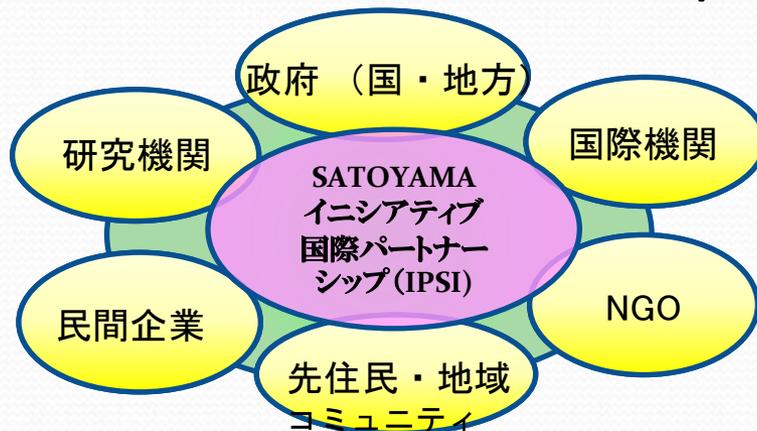
多様な生態系の  
サービスと価値の  
確保のための知恵の  
結集

長期目標  
自然共生社会の実現

新たな  
共同管理の  
あり方の探求

伝統的知識と  
近代科学の  
融合

## SATOYAMAイニシアティブ 国際パートナーシップ (IPSI)



9カ国の政府を含む51団体で発足  
(2010年10月19日)



348団体(2025年12月現在)  
事務局: 国連大学サステイナビリティ  
高等研究所 (UNU-IAS)

# IPSIの新戦略と行動計画 2023-2030

## IPSI Strategy and Plan of Action 2023-2030

2023年7月に秋田で開催された第9回IPSI定例会合において採択。

### 【戦略目標】

パートナーシップの次の10年間に、SATOYAMAイニシアティブに関連する活動に貢献し、**昆明・モントリオール生物多様性枠組(KMGBF)**を推進するための5つの戦略目標を設定。

1. 知識の共同生産、管理、活用
2. 制度上の枠組みおよび能力開発
3. 地域ベースの保全対策
4. 生態系の回復
5. 持続可能なバリューチェーン開発

### IPSI Strategy and Plan of Action 2023-2030

#### *Five strategic objectives*

1. Knowledge Co-Production, Management, and Uptake
2. Institutional Frameworks and Capacity Development
3. Area-Based Conservation Measures
4. Ecosystem Restoration
5. Sustainable Value Chain Development



第10回IPSI定例会合 (IPSI-10)  
ESPOCH, Riobamba, Ecuador  
3-5 March 2026

VIDEO INSTITUCIONAL ESPOCH 2025  
<https://www.youtube.com/watch?v=kDCIhsoUx10>

**Guardián de la Sierra Central y símbolo de fuerza**



能登半島(九十九湾)  
*Noto peninsula*  
世界農業遺産(2011)  
*Noto's GIAHS*

写真提供:「能登の里山里海」世界農業遺産活用実行委員会

# 世界農業遺産「能登の里山里海」

2011年認定

能登らしさ

## Noto's Satoyama and Satoumi, Globally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS)

- ① **生物多様性が守られた伝統的な農林漁法と土地利用**  
(Traditional agricultural, forestry and fishing methods and land use which protect biodiversity)
- ② 里山里海に育まれた**多様な生物資源**  
(Diverse biological resources in Satoyama and Satoumi)
- ③ 優れた**里山景観**  
(Spectacular Satoyama scenery)
- ④ 伝えていくべき**伝統的な技術**  
(Traditional techniques to pass on)
- ⑤ 長い歴史の中で育まれた農耕にまつわる**文化・祭礼**  
(Cultural & religious festivals related to farming nurtured over a long history)
- ⑥ 里山里海の**利用保全活動**  
(Satoyama and Satoumi utilization and conservation activities)



白米千枚田  
Shiroyone Senmaida Rice Terraces



あばれ祭り  
Abare Festival



あえのこと  
Aenokoto ritual



輪島塗  
Wajima lacquerware



いしり (魚醬)  
Ishiri (fish source)



出典：世界農業遺産「能登の里山里海」情報ポータル (Source: GIAHS 'Noto's Satoyama and Satoumi' information portal)



# 能登復興支援シンポジウム ～能登の創造的復興に向けて～



日時：2024年5月11日

会場：国連大学本部（東京）

共催：国連大学サステナビリティ高等  
研究所、環境省、石川県、公益財団法人  
地球環境戦略研究機関（IGES）、地球環  
境パートナーシッププラザ（GEOC）、  
公益財団法人国連大学協力会

パネルディスカッションには能登の高校  
生も参加。



**世代やセクターを超えた協働・連携、ユースの参画**の必要性、  
能登の未来を担う**若者がワクワクする復興プラン**を作ることの  
重要性などが共有されました。



イベント記事、動画↑

# 能登復興支援 国際シンポジウム

災害に強い地域の復興を目指して – 能登・東北・世界から学ぶ自然を活かした防災・減災–



日時：2025年3月20日

会場：金沢市文化ホール

共催：国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）、環境省、石川県、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）、公益財団法人国連大学協力会（JFUNU）



↑イベント  
記事、動画

深刻化する**気候変動に対応した復興を考えることの重要性**や、能登の**助け合いの文化や自然資源を活用した暮らし**が災害時にも役立ったこと、被災地で緑化などの活動に参加することが**心の痛みからの回復やコミュニティの繋がり**の構築にも良いこと、などが共有されました。

# 2025年度 GIAHS スタディー・プログラム

**対象**：県内大学生・県内出身の大学生

**主催**：石川県、国連大学UNU-IAS OUIK

- 金沢大および京大の学生11名が参加
- 講義、能登研修（8月）、中間発表、イタリア研修（9月）、最終成果発表会（11月）

**能登GIAHSやイタリアGIAHSから学び、能登の復興に向けて考える。**  
FAO本部等訪問。



能登視察（8月7－9日）

# EXPO 2025大阪・関西万博 「～CONNECTING YOU TO 能登～」

主催：環境省（国連大学UNU-IASが連携し開催）

- ① 「**生物多様性（強く生き抜く生き物たち）**について能登の小学生と学ぼう！」  
能登町立柳田小学校6名（5－6年生）が発表（さかなクンとオンライン交流）
- ② 「**被災地に学ぶ防災と復興**について能登の高校生と学ぼう！」  
石川県立七尾高等学校5名（1－2年生）が発表



柳田小学校の発表の様子  
（8月27日）



七尾高校の発表の様子  
（8月28日）

# 能登半島地震 緊急支援募金

国連大学協力会

- 発災状況** 令和6年1月1日 地震発生 / 9月21日豪雨発生
- 目的** 生活再建・里山里海と共にある地域の暮らしや営みの回復
- 使途** 頂いたご寄付は全額を国連大学UNU-IAS OUIKとの連携の深い現地5団体等へ助成

## 支援先 5 団体の活動内容

### ①能登地域GIAHS推進協議会（9市町）

- 世界農業遺産「能登の里山里海」の保全活用
- 学校と連携した生き物調査の推進



### ②能登里山里海マイスターネットワーク

- 能登の若手人材の生業の復興
- 人材ネットワークの強化



写真：団体フェイスブックページより

# 支援先 5 団体の活動内容

## ③ミライノトモシビ（能登町）

- 地域の高校生のプロジェクト支援  
（挑戦・学び・交流の支援）



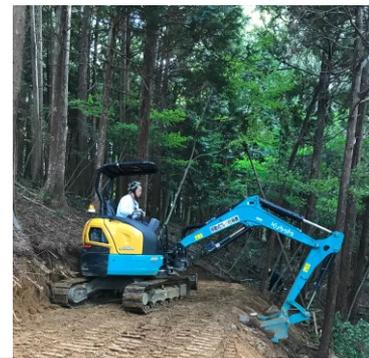
## ④能登島自然の里ながさき（七尾市）

- 里山管理・里山資源を活用した塩づくり・希少種保全、教育活動
- 井戸・雨水を活用した防災



## ⑤のと復耕ラボ（輪島市）

- 民間ボランティア拠点
- 古材レスキュー
- 持続可能な里山・森づくり



※寄付方法の詳細は、QRコードから国連大学協力会ウェブページをご参照ください。



# Biocultural Diversity in

# “Noto’s Satoyama and Satoumi”



## 「能登の里山里海」の生物文化多様性





写真：環境省

パネルディスカッション  
冒頭スピーチ 6分間のスライド

# 能登里山里海トーク

日時：2024年11月、2025年2月、3月

場所：国連大学本部／GEOC（東京）

主催：国連大学UNU-IAS OUIK

協力：石川県、GEOC

ファーマーズマーケットで能登の生産者さんの声を届けました。**“地域と地域外のつながりが大きな力に”**



トーク1：和菓子、あげ浜塩の生産者さん



トーク2：農家、醤油、野菓子の生産者さん



トーク3：水稻、干し柿農家、ブルーベリー加工品の生産者さん



当日の里山(能登町)



まるやま組(輪島市)



当日の里山(能登町)



大野製炭工場(珠州市)

# 断水時における井戸水の利用状況調査－能登島を対象に－

国連大学UNU-IAS OUIK 小山明子、石川県立大学 柳井清治

## 目的

- 井戸の種類や分布、水質の把握
- 断水期間中の井戸水の使用状況の把握
- 災害に強い（レジリエントな）地域づくりのための水利用のあり方の検討

## 手法

1. 断水状況のデータ収集
2. ヒアリング
3. 水質調査
4. アンケート（868世帯全戸配布）



# 井戸の種類



浅井戸 (1-6.5m)



深井戸(20-120m)



横井戸

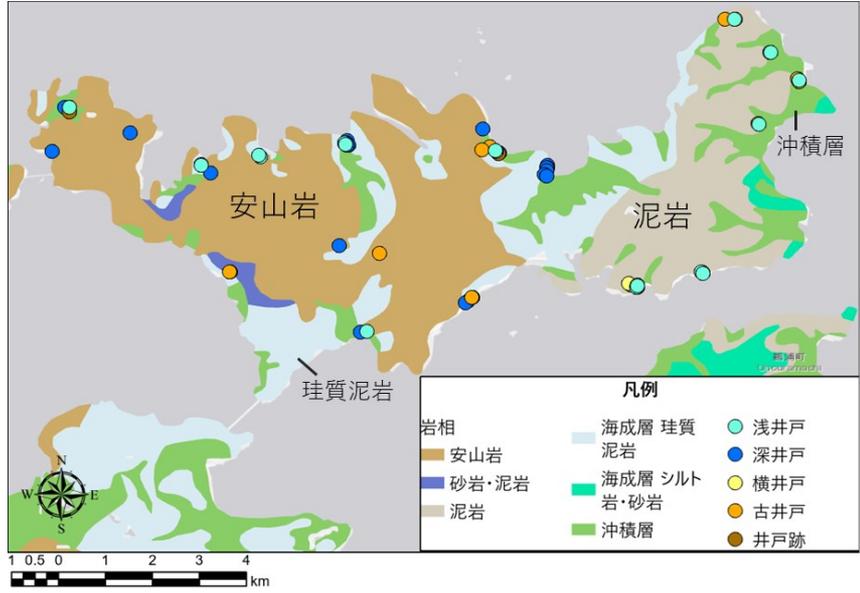


古井戸



井戸跡

# 分布



地質とヒアリングで把握した井戸の分布

## 普段の使用状況

- ・ 42%の回答者が井戸を日常的に利用 (西部は60%以上)

## 断水時の使用状況

- ・ 72%の回答者が断水期間中に井戸水を使用 (自宅の井戸水使用は41%)

地域内に多数の井戸が現存し、最長3か月に及ぶ断水期間中に重要な役割を果たしていた。

# 2024年地震・豪雨の影響 (里山・森林地帯)



資料：柳井清治

# 集中豪雨により発生した表層崩壊 (輪島地区)

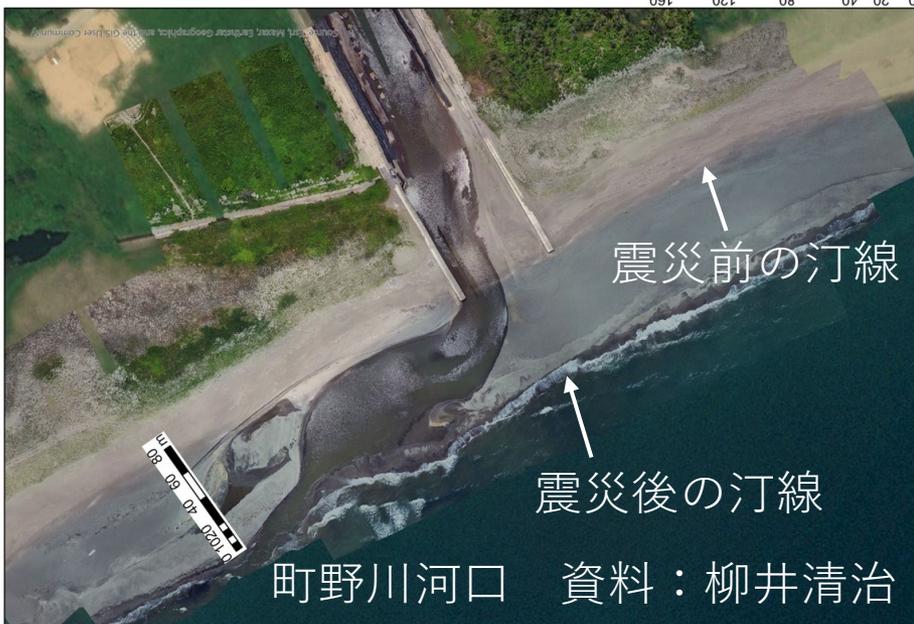


輪島市山本地区に発生したスギ人工林斜面の崩壊



膨大な量の土砂と流木が扇状地上の住宅を埋めつくす

資料：柳井清治



# 森 - 川 - 海の連続性の確保

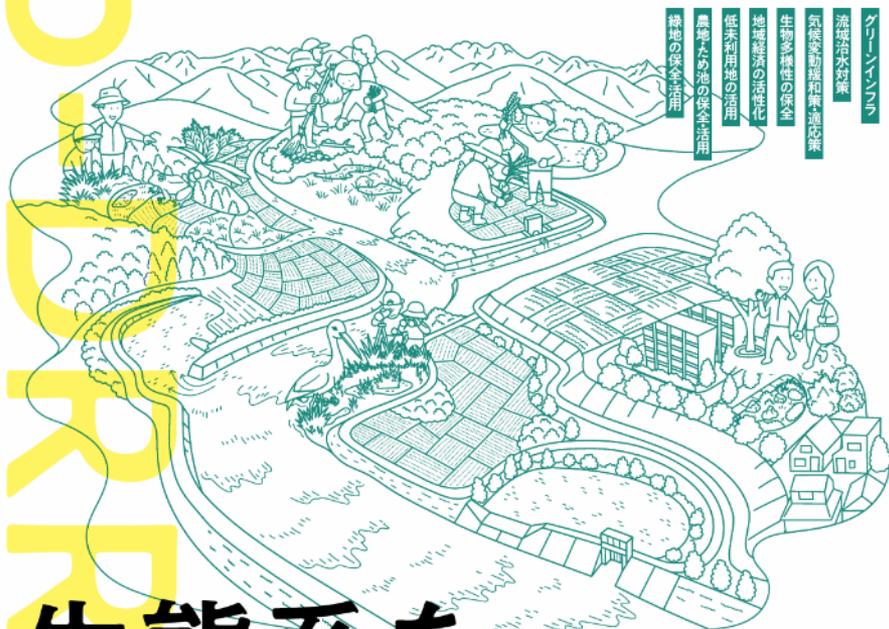


希少な魚類への影響

多くの土砂が流出し、大規模な防災工事が予定されている町野川水系

資料：柳井清治

# 持続可能な地域 づくりのための



# 生態系を 活用した防災・ 減災の手引き

生態系保全・  
再生ポテンシャル  
マップによる  
Eco-DRRの推進

環境省

2023年03月31日

## 持続可能な地域づくりのための 生態系を活用した防災・減災の手引き [概要版]

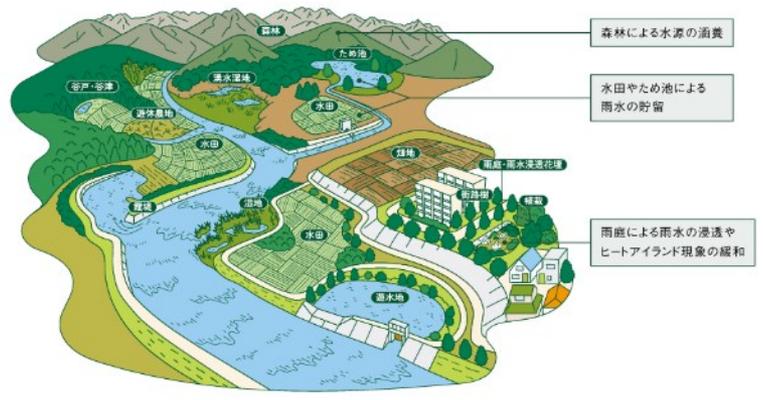
— 生態系保全・再生ポテンシャルマップによるEco-DRRの推進 —

本手引きは、自然災害に対するレジリエントな地域づくりと生物多様性の保全の両立に貢献し、地域の社会・経済的な発展にも寄与する取組であるEco-DRR（Ecosystem-based Disaster Risk Reduction：生態系を活用した防災・減災）を進めるにあたって、活用できる情報やその活用方法などを示したものです。

とりわけ、湿地環境としてのポテンシャルがある場所や生物多様性保全を図る上で重要な場所など、Eco-DRRのポテンシャルがあると考えられる場所（生態系の保全・再生を図ることで、生物多様性の保全だけでなく、防災・減災にも寄与すると考えられる場所）の可視化を目的とした「生態系保全・再生ポテンシャルマップ」の作成方法やその活用方策をとりまとめました。

### 本手引きが主な対象とするEco-DRR

本手引きでは、近年、大型の台風や集中豪雨等による水災害が頻発していることや生物多様性保全の観点からは湿地・氾濫原等の攪乱環境の保全が課題であることを踏まえ、とりわけ水害リスクの軽減に寄与するEco-DRRを主な対象としています。



### 生態系保全・再生ポテンシャルマップを活用したEco-DRRを実装するアプローチ

- 新たな施策の検討  
計画の策定や事業の実施にあたって、地域の状況を把握するための基礎資料として生態系保全・再生ポテンシャルマップを活用する。さらに、ポテンシャルマップによる評価を基に現地の状況確認等を行うことで、生態系の保全・再生が地域づくりや防災・減災に果たす役割を踏まえた具体的な施策を検討する。
- 既存の取組の再評価  
生態系保全・再生ポテンシャルマップを用いて地域の自然再生活動等の取組を評価することで、生態系の保全・再生に関する取組が、社会的・経済的にも様々な効果をもたらしていることを示す。さらに、様々な効果を引き出すための工夫を行い、防災・減災や地域経済にも貢献する取組に発展させる。

Eco-DRRの実装にあたっては、市区町村をはじめ、都道府県・河川管理者や地域住民・市民団体など、様々な関係者の連携による横断的な体制の構築が望めます。



1. 徳島県庵治町 地域の関係者が連携した取組の推進  
2. 千葉県富里市 地域のフィールドとしての谷津の利用

資料：環境省